

DISAPPEAR

DeathNote Light/L special hideki KAWAI I LOVE I present

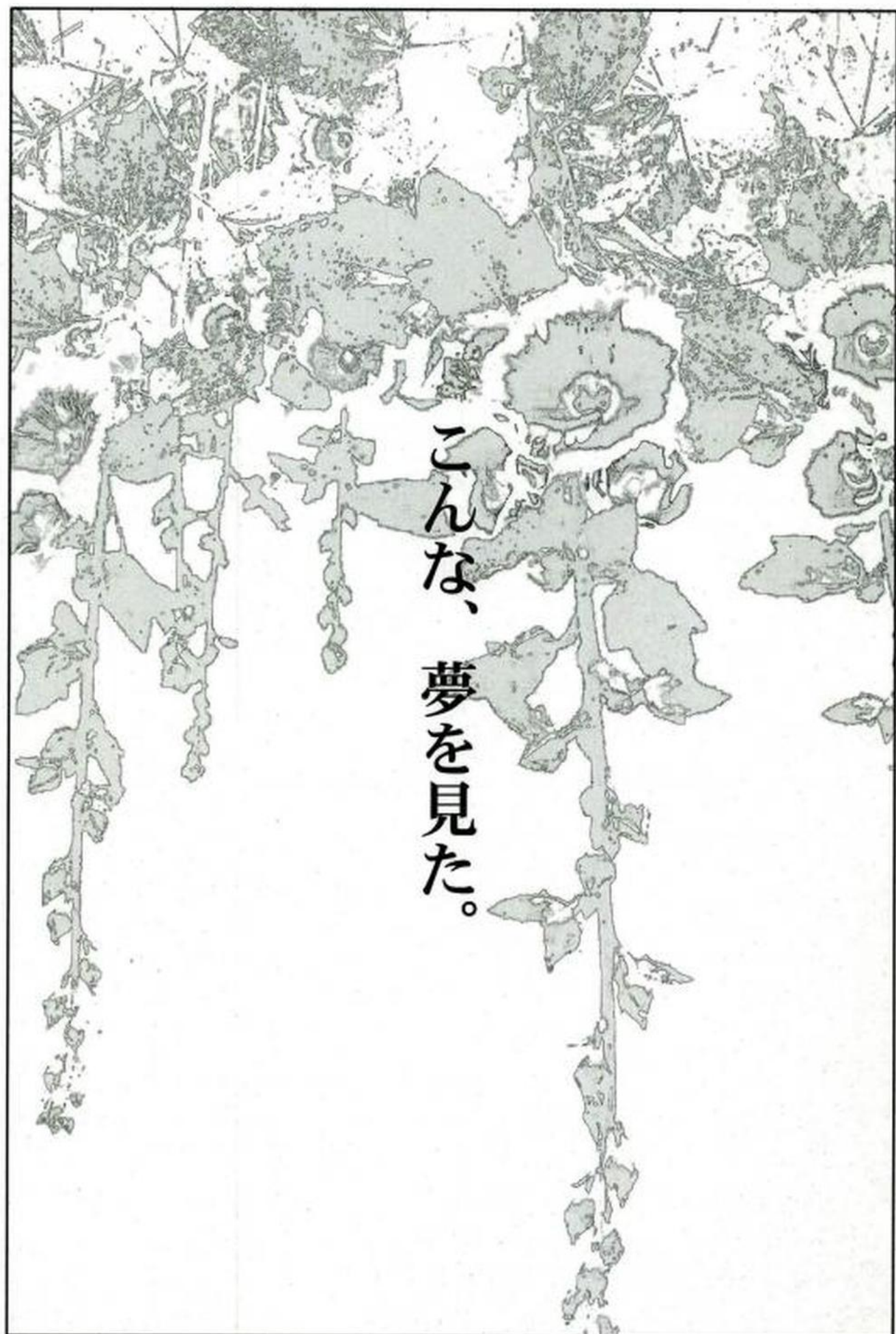
DEATH NOTE
fanbook

All produced by
I LOVE I
hideki KAWAI
2005

Light # I. special

Disappear

そこまでして、彼に声をかけたのは、おまえに未練があるからか。



こんな、
夢を見た。



再度…

料金確認を
させて
頂きます。

延長は30分
3千円です。

指名料は
2千円。

さわ…

レギュラー
サービスで
おっぱいが
さわり放題です。

……って…
ちよと…

聞いてますか？
夜神くん…



…又、
別料金で
指入れ可。

それから…



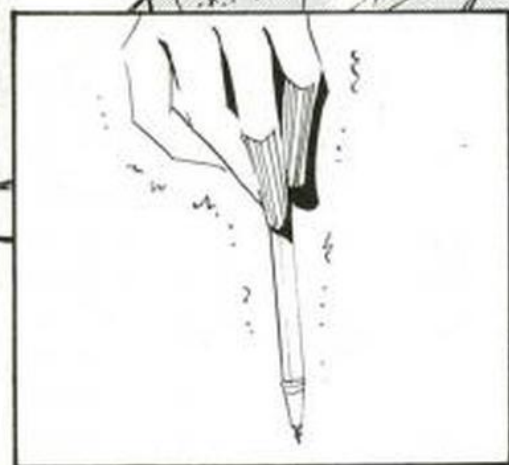
！…キスは？
流河…



ちゅーは…



ちゅーは
1回千円に
なつていきます...



千円
デス。



彼のくちびるは
きつと口付けたら
甘いんだって
いうコトを。

ずっと……
考えていた。

ふ……

それは探偵である
彼と、密かに
対決をしていた頃。



hideki KAWAI
[LOVE] presents

[DISAPPEAR]

キラの連続殺人事件が
一応の終結をみて、
(それはとても曖昧な)
数年が経った。

僕はまんまと
逃げおおせ、
流河、レーのコト
なんて忘れてやった。

普通に就職をして、
普通に生活をして、
普通に人生を送っている。

退屈なもの
それ程苦痛じゃない。





ココで働いてるって
…流河、本気なのかい？
しかも流河が
コンパニオン
だって…?!

はい、
そうです。
「いらっしゃいませー」
なのです月くん。



はあ？



相変わらず
だね、流河…。

この店では
「リリイ」です。

なので…



またこの男は
こんな見え透いた
嘘を…。

はは…う、



すっ…



……。



夜神くんも
ぜひ…。

「リリイちゃん♡」
と呼んでください。

流河…、それは
勘弁してくれよ。

水割り
できまじ
た！

断る。



じゃん

かわいさ
20%増量です。

これで夜神くんを
悩殺120%デス♥

殺して
いいカナ?
この男…

できる訳
ないだろう

そんなモン…

ひどいです
夜神くん。

無茶言うな
流河。

夜神くんを…
悩殺できないと
困ります。

こういう店は
不慣れでね…

そうですね…
夜神くんが
こういう店に
来るとは
意外でした。

夜神くん
には…
似つかわしく
ない。

……

それでも
ないさ。

隣のブースの
方は…
お連れですか？

……上司
でね…

無理矢理おさわりパブ
だーって連れてこられた
ものの、僕は
放つたらかしてお楽しみだ。

こちらは流河で…
いつそ
助かったカナ？

別にいいんだ
けどさ…
どうしようかな、
とは思ってたんだ。

さすがにちよつと…
こういう店だろ？



ところが
どうして
そうは
いきません。

夜神くんには…
私で楽しんで
頂けなければ、
私がクビになつて
しまいます。

！…

ふ…
どうい
つもりだ？



さわつて
くれなければ
仕事に
なりません…。



夜神くんが…



突き飛ばそう
としてやめた。

ふざけるな、と。

何だよ
流河…

これが仕事じゃ
なかったのか？

なのに
おまえ
さあ…

何
震えてんだよ…

！……

困りました…

知ってる人
だと…

さすがに
緊張します…

しょうがないな、
流河は…

……まで本気で
言ってるんだと
思いつく

その時、
柄にもなく…

昔と全く変わらない
流河の子供染みた
チヨコレートの
甘い香りに

スイマセン…
月くん…

何故か胸を
打たれていた。

犯行予告は、
明後日です。

念のため
警備を
強化しますので、
ご協力を
お願いします。

こんな偶然が
あるものか。

それから…

II

III



お席へご案内
致します。

店内に、夜神月が
入ってきて、
心底びっくりした。

ジャカ
ジャカ
ジャカ
ジャカ



就職して、
ネクタイを
締めるようになっても、
以前と少しも
変わらない。

冷めた眼差しに、
どこか幼さを残した
端正な横顔。



あれほどかつて
執着し、
追いつめたのに
取り逃がした。
我が人生唯一にして
最大の汚点。

店長…
米店は初めて
彼の指名は？
ですか？

えっ？
あ…、ああ、
彼は…見たこと
ないですね。
指名はお任せ
だそうです。

その連れの黒い
スーツのお客様は、
常連で
いらっしゃいます。



だったら…

彼の相手は…
私が行つても
いいですか？

は？

古い…
知人なんです。

お店に
悪いようには
しません。
お願いします…。

まあ…

そりゃ…
構いませんけど…。

それから…

それとなく
人払いを。

彼に声を
かけたのは、

夜神月に
未練が
あるからか。



何故か
憎めない、

男だった。



はい、えー…
皆様お待たせ
致しました。

おさわり放題の
ダウンタイムが
やって参りました。

ゆっくりと
皆様お席へ
おつきください♡



膝の上、
失礼
しまーす♡

膝の上、
失礼
しまーす♡



ところで
ワタリは？

はい？

ワタリはその辺に
いないのかい？
さつきからぐだぐだ
言ってるけど…

要は、事件絡み
…なんだろう？

私…

実は、キラ事件の
おかげで、がっすり
信用なくしまして…



路頭に迷っていた所、
この店の主人に助けられ、

今、夜神くんのお相手を
させて頂いている次第。
なんです…

あーその目は
信じていませんね？

……

今のは
全部
嘘でした。

ワタリは…
別行動なので
今ココには
いません。

まさか…

まだ…
キラ事件を、
詳しくは
言えませんが…
全く別の事件
です。

そのために、
こうして店にも
出ています。

でも、

こう言っちゃ こんな店に来て
何だけど… 女のゴじやなく
流河なんか出てきたら
お客さんは
怒るんじゃないの？

はあ…
でも、どこの世界にも
物好きな方は
いらつしやるものなんですよ。

ふうん…

別の、
事件。

こんな
まっ平らな
胸でも…

楽しいみたい
ですよ？

へえ。


…どうしたの？

ひたひた


ももぞて

スイマセン…
ちよと…


冷たかったんで
驚いただけです。



何こんなゴトに
体張つてんの？




てか
流河さ…



こうして外へは
出てこなかった。



か…



昔の流河
だったら…

ましてや
自らこんな仕事
までするもんか。

余程
入れ込んでる
事件でもなきやすぐ
やる気をなくす。

そして
僕の知っている
流河は…

とても慎重で臆病だ。
自分の手は
汚さないで
欲しいものだけ
食いちらかす。

キラ事件以上に
何が君を

あゝ

さわ

一体、

こんな現場まで
引きずりだしたって
言うんだ？

まだ…

私があることに
興味があるとしても
言わせたいですか？

月くん…



過去、私の前を
通りすぎたに
過ぎない。

事件の
犯行予告場所で
私が準備している
所へたまたま
あなたがやって来た。

16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26
27 28 29 30 31
a teta / encounter
6/14

昔とくらべて…
ずいぶんと
くたびれた顔を
していた。

連れの人を
呪う様に、
ほんやりと一人
宙を眺めていた。

こんな場所…

バカバカしいと

思ってたんですね？

疲れたような

眼差しをしていました。

だから、

だからちよつと
声をかけてみた。

……。

今現在の
私のこの店での
仕事を兼ねた…

退屈
しのぎです。

……。



怒ってるじゃないですか…



お…怒ったんですか？
月くん。

怒ってない。

でも…さ、さっきから…

お、お…



な…殴るのは勘弁です…

…

こ…こんな店で…私も…さ、騒ぎは起こしたくありません…



？

キスは千円…



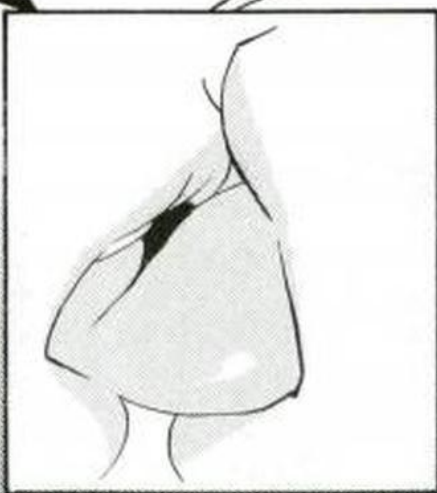
言いました…

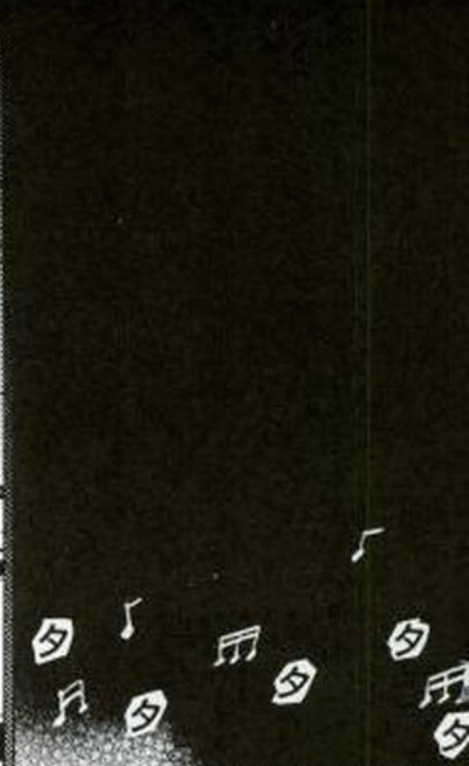
言いました、

け



一回千円って言うってたな…？





私も休憩して
ましたし…

眩しいかと
思いました。

それより…
明かり…
消さなくても
よかつたのに。

いや…
こつちこそ
寝ちやつてゴメン。

スイマセン…
起こしました
か？

月くん…

…何
観てるの？

ふうん…

これって CS?

流河つて…
こんなの観る趣味
あつたんだ…?

いえ…

たまたま
やっていたのを
つけていただけ
なんです…
ギエム
くらいは
わかります。

ふうん…

僕は全然
わかんない
けど。

元仏オペラ座の
エトワール。
英ロイヤルバレエ団の
プリンシパルです。

……
それにしても。

?

よくこんなに
足が上がる
もんだよね…

……
彼女はまた
特別です。

へえ…

でも実は。

私もこれくらい
足が上がります。

うっそ！

じゃあ
やってみせて？

本当です。

いいですよ？

おたのしみな
低能な
会話





大体そんなの
関係あるか!!!!

いいえ!!







そうだね。



.....

うん...



その時

流河の
心臓...

ちよと
早くない？

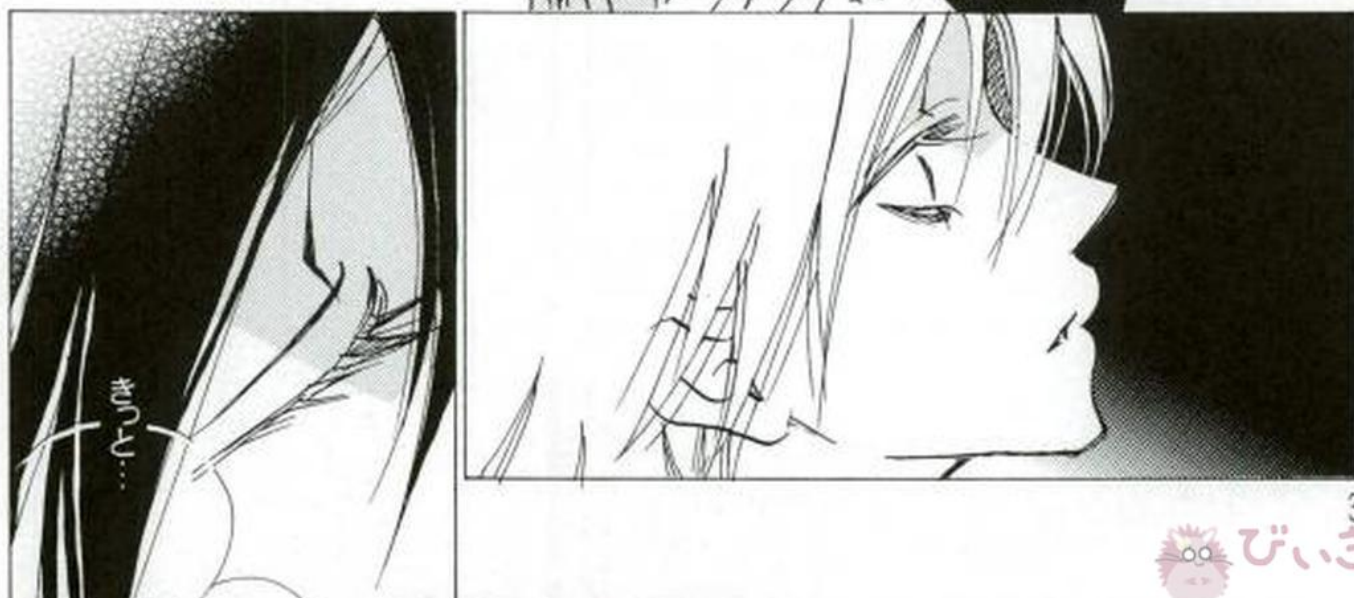


最低気温は
氷点下2度。

三日前の初雪が
この暖かい東京で
未だ消えない。

星は寒さで
まるで
降ってくるよう。

いつもの年なら、
母さんの手が
水仕事で少し
荒れ始める季節。





流河も僕も
何となく
はしゃいでいた。

疑惑と憎悪と
屈辱と。

その狭間で、



一瞬間いたのは、
にじんだ星か
彼への好意か。

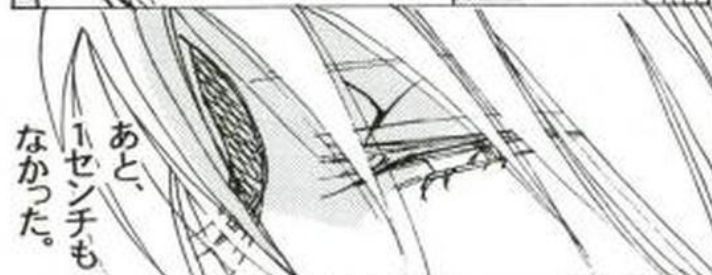


こんな緊張したゴト
なんてない。



生涯で、

目を閉じた流河を
間近で初めて見た。





キフ事件が
終わって一度だけ

コッ

コッ

コッ



できなかったのだ。



かつて彼と
過ごしたあの
ビルへと行ってみた。



都会の喧噪にあつて
妻まじく静謐な
廃虚に見えた。

中には



もう、誰もいない
そのビルは、



ちよ…

ちよ…

入れなかった。

と…ふ…

本気で
入れるつもり
ですか?!



まだ…他の客に
入れさせて
ないんだ?

あ…

する…

ま、まだ
さすがに、

それは、



と…ふ…



お、
入る。

ん

ん…

び…

キィ
キィ
キィ

熱いね…

流河の中…。

あ…

何…
懸命に
指動かして
るんですか…。

やめて
ください…。

だから…、
別料金
なんだろう？

それくらい
払うよ。

それに…

それに？

まだ…
指だけだ。

まだ何か
入れる気
ですか？!

は。



……



……ああ！
こんな機会、
早々あるもん
じゃない。

世界的探偵のしが…
男に金でいたずら
されてんだぜ？



楽しくない訳
ないじゃないか…。

ふ…

うそを言わないで。



……

下種が…



大丈夫。

バレないよ
別に。

本番禁止
です。

ココ…
もう…

入るんじゃ
ない？



そういう問題
では…

僕は、



僕は流河の
困った顔が
見れば
それでいい。

それで
いいんだよ
…。



あ、

あ…

あ





あなた…
一回死んできた
方がいい…

いや、
死ね。
今すぐ死ね。

昔見られたから
おあいこだよ！

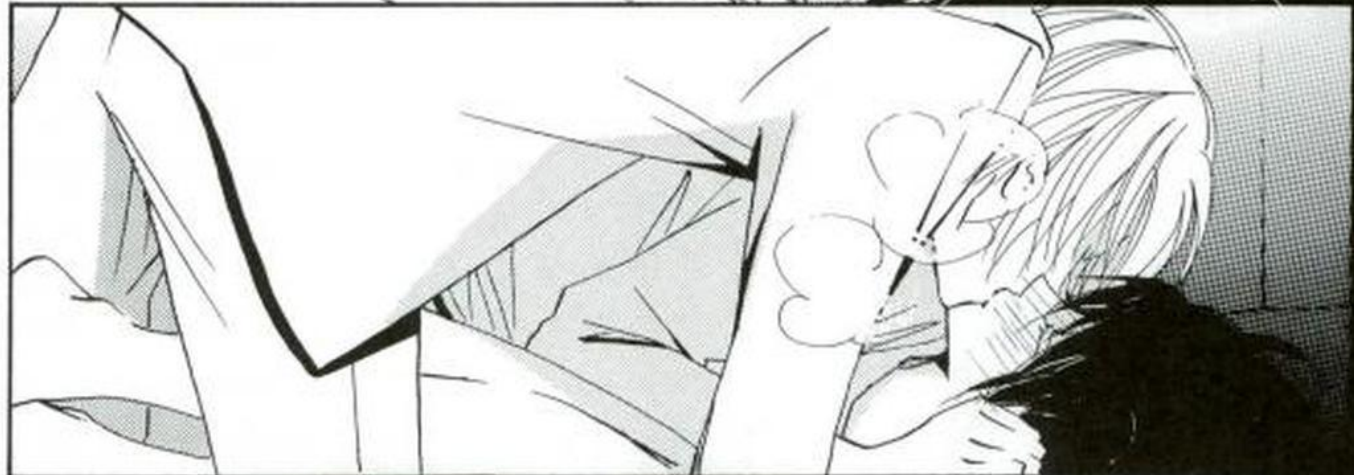
流河…

ちゃんと
顔上げて？









例えるなら、
魔法のようなものに
包まれたあの日々は、

「恐ろしくは、
大いなる力…」

「ちよと
早くない?」

「流河の心臓…」



「月くんの
気のせいですが…」

本当に現実だったのか、
それとも願望に歪めた
虚偽の空間だったのか。



記憶も日々曖昧に、

粧裕…、
ちやんと勉強
してるのか？

もうすぐ
中間テスト
なんだろ？

日常という
厚いベールに
覆われていく。

あ、父さん…
その塩
取ってくれない？

うん、そう。
そのの

コラ、粧裕…
笑ってしまかす
なよ。大体
おまえは……

会社に
行ってくる。

ウホッ。



夜神君、
何とか頼むよ。
君だけが
頼りなんだ。

今度
奢っちゃう
から!

大丈夫ですよ
部長。



どうせ家に帰っても
しょうがない
独り身ですし…

今晚中には
処理して
おきますよ。

結局…

そのかわり…
かつてあれほど
憧れた、

海外栄転の件は
ヨロシク
お願いしますね。



流河…

警察官には
ならなかった。

ちゃんと
息して?

死んじゃう
よ…

が



やっぱり…
痛かった
カナ？



は…う、



ああ
そう。



割に…
気持ちいいかも
しれません…。



誰も
自分を知らない
遠くへ



あんまり…

見ないで
ください…。

私…今…
変な顔に
なってますし…。



逃げたかったのかも
しれない。



する……

かわいいね、
流河……

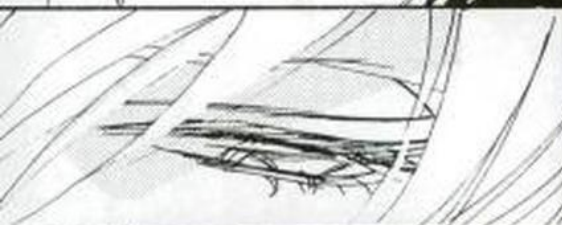


流河の、



ん？

月くん……



何……？

どうしたの？
流河……

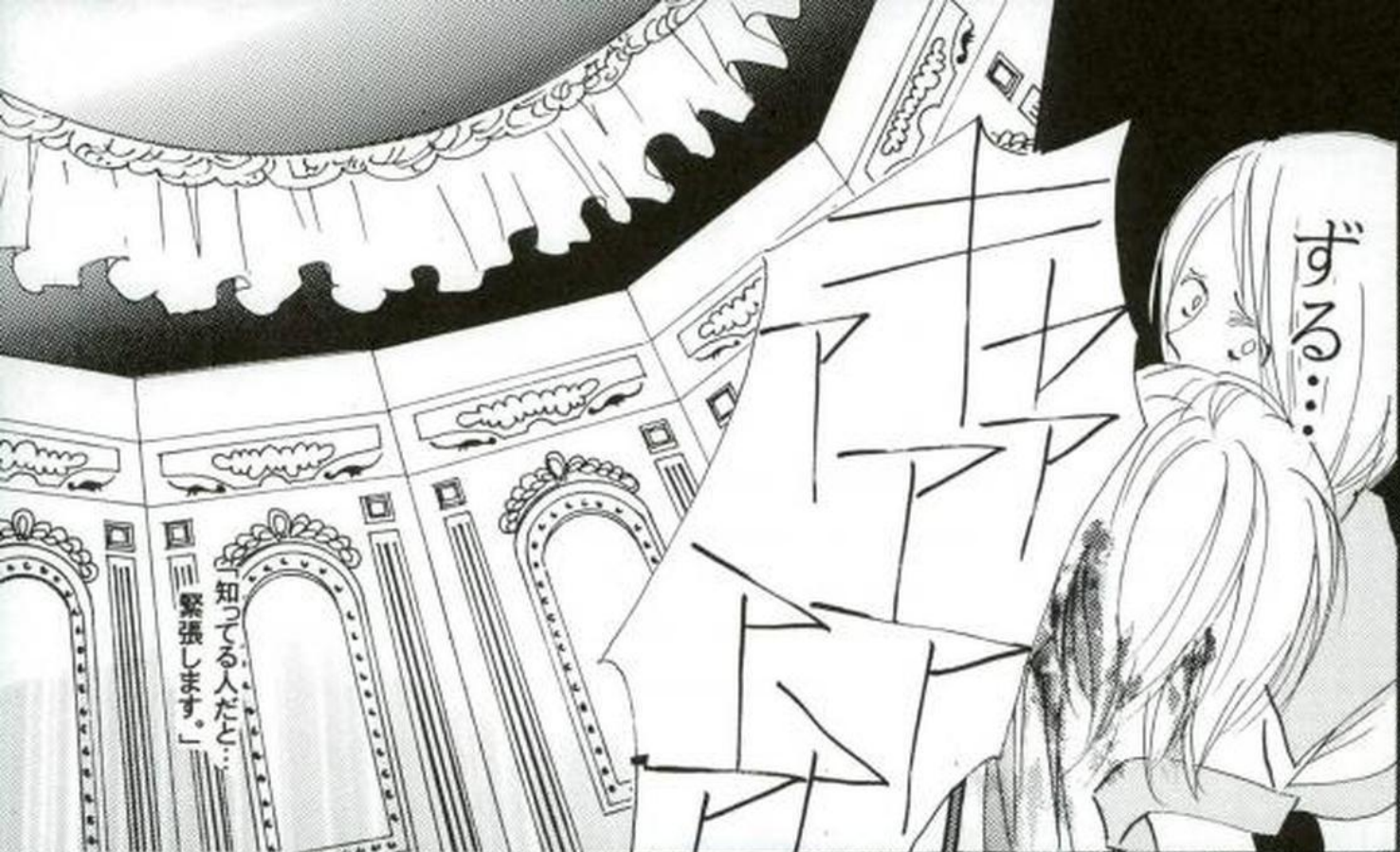
する……

……



戸惑ってる
顔なんて
初めて見た。





「ずる...」

「知ってる人だと...
緊張します。」

「だったら
彼の相手は
私が行きます。」

「あなたには
もう、
全然全くカケラも
興味はありません。」

「千円です。」

「ワタリ、
そこの
チケットの
動きは？」

「月くんの。」



「心臓の音が
します。」



「...」

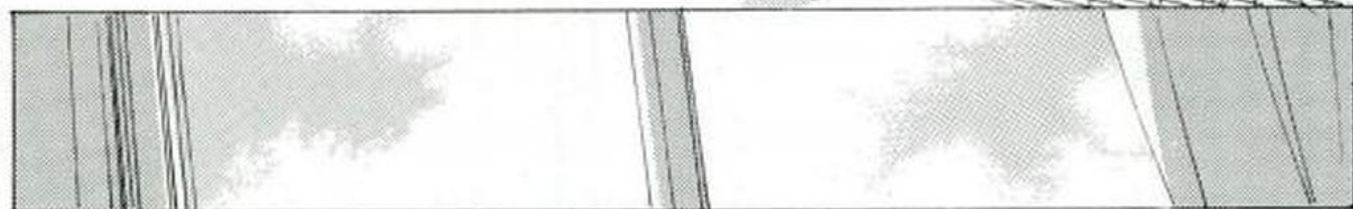
420
420



自分に都合が
いいように、

夢で
彼の人格も記憶も
作り替え、

願望のままに
彼を
動かしていれば
世話はない。

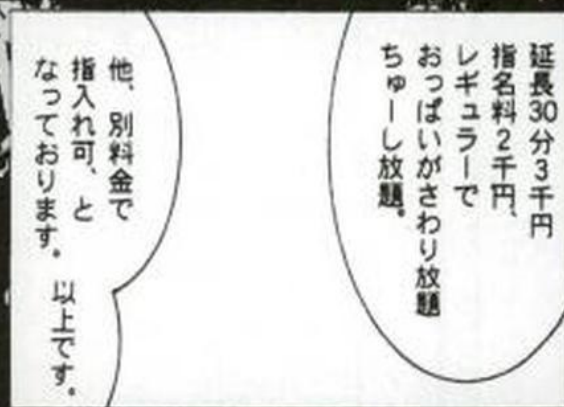


その浅まじき心、

ぽっかりと浮かんだ
雲と
青い空の世界の中で。

いつまでも
シーツのしわを
凝視していた。

もういない、君へ向けて。



DISAPPEAR

DeathNote Light L special hideki KAWAI I LOVE I presents

死のノートに消えた花の記憶
死のノートに消えた花の記憶